

(二〇一九年度)

## 2 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は19ページ、三問である。)

### 受験についての注意

- 一、試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能を使用してはならない。また、スマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
- 五、解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいいいに消すこと。消しすぎはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
- 九、試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

痛みは、瞬間瞬間に直接的に感受される感覚的な質でありながら、強度次第では生活の質にまで多大な影響を及ぼし、その意味への問いかけを生みださずにはおかない特異な現象です。痛みが感覚の一種であることは疑いありませんが、その感覚能力は特定の感覚器官には限定されず、身体全域にわたるばかりでなく、<sup>1</sup> 雰囲気や居心地といった世界を感受する仕方についても反省的意識として機能してしまう場合もあります。痛みはセルフケアの対象であると同時に、セルフケアの結果でもあるのです。このように特異な位相をもつ感覚である痛みについては、近年、生理学、心理学、医学、看護学など多方面から考察が進められています。本章では、そうした研究成果を踏まえながら、改めて痛みの意味を人間の生の営み全体のうちに位置づけ、いくつかの角度から哲学的に考察してみたいと思います。

ヴィトゲンシュタインは『青色本』の中で、「私は歯が痛い」という文と「彼は歯が痛い」という文の意味の違いについて次のように論じています。

次の二つの場合を比べてみ給え。一、「彼が痛みを感じていることが君にどうしてわかるのか」——「彼のうめくのを聞くからだ」。二、「君が痛いのを君はどうしてわかるのか」——「私はそれを感じるからだ」。だが、「私はそれを感じる」とは「私は痛い」と同じ意味である。だから、それは全く説明にはなっていない。<sup>2</sup> しかし、その答の中で、「私」という語よりも「感じる」の語に強調点をおくのが普通であることは、その「私」によって一人の人間を（あれこれの人々の中から）選びだそうとしているのではないことを示している。

二つの文において違っているのは、人称代名詞が指示している対象に過ぎないように見えますが、実はそうではありません。それぞれの文の真偽を検証するために何をしなければならぬかを考えてみればすぐにそのことが理解できます。二つの文においては<sup>4</sup> 真偽の検証方法そのものが全く異なっており、真理条件としての意味自体に違いがあると言わねばならないのです。

視覚や聴覚に基づく対象知覚の場合には原則として誤謬の可能性が考えられます。錯覚や幻覚の可能性が絶対にならないとは言切れないからです。ところが痛みの場合、事情は異なります。私が「私は歯が痛い」と言う場合、嘘をついた、とか、ただ言ってみた、というのでない限り、その命題が真であることはこの私には検証するまでもなく直接に明らかです。痛みを感じたのであれば、実際そこに痛みがあったのです。痛みの部位が判別し切れなかったり、痛みとも痒みとも区別しづらかったり、というようなことはあっても、痛みを感じたのには実は間違っていてそこに痛みは全く存在しなかったのだ、というようなことはありえません。痛みとは、距離<sup>5</sup>を欠いた主客未分の感覚であり、誤謬の可能性を欠いているのです。

しかし、これほど明らかな私の歯の痛みをじかに感じるができるのはこの私だけであり、他人はそれを直接に感じることはできません。それと同じ様に、他人が感じている痛みについて、それを直接に感じることは私には絶対に不可能なので

す。

痛みにはこのように、人間を一人ひとり単独の存在へと孤立させてしまう力があります。もつとも、これは痛みに限ったことではなく、他のあらゆる感覚についても当てはまることだと言えないこともありません。例えば、私に見える夕焼けの赤い空が他人にも同じように赤く見えていることを確かめる術はどこにもないからです。とはいえ、確かめる術がないことの自覚がそのまま、色の世界が一人ひとり違うという確信に結びつくことはありません。それに引き換え、痛みの場合は、往々にして一人ひとりを孤立させてしまうのです。仮に夕焼けの赤い空によって孤独感をひしひしと感ずることがあっても、それは痛みによる孤立感とは全く異なった経験です。痛みにおいて私は否応なしに自分の身体に縛り付けられます。見たくなかったり聞きたくなかったりすれば、目を閉じ、耳を塞げばよいでしょう。しかし痛みは自分の力ではシャットアウトすることは困難です。その不快な感覚から逃げ出そうとして意識を別のことに集中させたり激しい運動に身を任せたりして一時的に痛みを忘れることができたとしても、痛みは一過的なものでない限り再び押し付けがましく意識をそこへと向けさせるのです。

しかし、痛みの感覚それ自身が痛みへと目覚めさせるとき、意識の働きは全体として生き生きと覚醒するというわけではありません。むしろ眠りたいのに眠れないという不眠の苦しみに似たやるせなさこそが痛みのもつ覚醒の性格なのだということ

ができます。痛みはこんなふうにして、私を痛みそのものへと縛り付け、孤立化させるのです。その結果、こんなに痛いのに誰も分かってくれない、という、ある意味では当然のことがきわめて不満に思われるようにさえなるのです。

痛みには程度があります。例えば指先に圧力をかけても、その圧力が弱ければその感覚は痛みとしては感じられません。しかし次第に圧力を増していくと、やがて痛みとして感じられる閾<sup>いき</sup>に到達します。その事実をもとに、痛みを測定する方法として、圧力や電流を段階的に上げたり下げたりすることによって、感覚閾、痛覚閾、耐痛閾を測定する精神物理学的方法が痛みの客観的な測定法として考案されてきました。しかし、ルリツシュが指摘したように、患者が経験している痛みは実験室で研究されている神経伝達路に関する科学的分析のために統制された痛みではなく、<sup>10</sup>生<sup>いき</sup>き<sup>ら</sup>れ<sup>て</sup>いる痛みです。その生<sup>いき</sup>き<sup>ら</sup>れ<sup>て</sup>いる痛みを客観的に数値化することには多大な困難があります。そのため、痛みの測定法として、その他に質問紙法、動作法、表情判定法などさまざまな方法が探し求められました。しかしいずれにしても、主観的な感覚である痛みを、それを感じている人がどれだけ間主観的に理解可能な言葉で表現できているかを客観的に評価することは難しく、またその表現内容が測定者によって経験されたことのある痛みとどの程度まで比較可能であるかも理解するのは困難なのです。今日では、脳の活動を外部から非侵襲的にモニターする方法が開発され、主観的評価と脳の活動とを同時に計量することが可能になっています。それでもなお、<sup>11</sup>原理的な困難そのものが解消することはないのです。

(丹木博一「いのちの生成とケアリング」)

#### 〈注〉

セルフケア：自分で自分を気づかい配慮すること

ヴィトゲンシュタイン：オーストリア出身の哲学者(一八八九—一九五二)

閾(いき)：刺激に対して生体反応が変化する境界値

ルリツシュ：フランスの外科医(一八七九—一九五五)

問主観的…相互主観的

非侵襲的…生体を傷つけるような刺激を与えないで

問一 傍線部1の内容を表すのにもっとも適切な例を次の中から一つ選べ。

- a 無意識の発言に、その場にいる人たちからの刺すような痛い視線を感じる。
- b 身体全体に強い痛みがあり、その場にいることが耐えがたいほど辛い。
- c 自分の失態で、他の人に気まずい思いをさせたことを思い出すと心が痛む。
- d 被災の現場にいる人たちの雰囲気は痛々しくて、見るに見かねる思いだ。

問二 傍線部2で、「全く説明にはなっていない」と言われる理由について、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 私が痛いと感じるときに「私が痛い」と言うのは、全く当たり前なことではないから。
- b 自分で自分の痛みを言うだけでは、問うている人とその痛みを伝えることができないから。
- c 問いへの答えが、「私が痛いのは私が痛いからだ」となり、論理的に破綻しているから。
- d 「私は痛い」と「私は感じる」は同じ内容なので、理由の理解がそれ以上深まらないから。

問三 傍線部3が述べていることについて、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 痛みは、誰が感じている痛みであるのかという点こそが本質的な問題なのだ。
- b 痛みは、二人称や三人称の「だれか」ではなく一人称の「私」だけに関わる。
- c 痛みは、私がそれを実際に感じているという事実の方に重大な意味がある。
- d 痛みは、特定の「私」に関わるのではなく誰にとつても同様に痛いものだ。

問四 傍線部4について、「私は痛い」の真偽の検証方法として適切でないものを次の中から一つ選べ。

- a どこがどれ位痛むのかを確認する。
- b 思い違いではないのかを確認する。
- c 冗談ではないかどうかを確認する。
- d 言い間違いではないかを確認する。

問五 傍線部5の意味としてもつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 痛むことを、痛みの感覚と痛む箇所との二つに区分するのは難しい。
- b 痛みでは、感覚する主体と感覚される対象の双方が同一視される。
- c 痛みは、それを意識したときにはじめて自分にとつて感覚となる。
- d 痛みには、感覚する主体と感覚対象となる客体という区別がない。

問六 傍線部6の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 自分では他人と同じ色を見ているかどうかかわからないと思っ  
ていても、他人もそう思っているかどうかはわからな  
い。
- b 見ているのが同じ色かどうかを確かめる方法がないのであれば、他人が違う色を見ていると想像することもできな  
い。
- c 同じ色を見ているのかどうか確かめられないことがわかっていても、他人が違う色を見ているはずだとは言い切れな  
い。
- d 同じ色かどうか自分には確かめられない気がしていても、そのたんなる思いが他人についての確信となることはな  
い。

問七 傍線部7における「痛みによる孤立感」の特徴として適切でないものを次の中から一つ選べ。

- a 自分が小さな存在だと思わされるような孤独感
- b 自分の痛みが誰にもわかってもらえない疎外感
- c 自分の身体から逃げられないというやるせなさ
- d 自分の力ではどうしても遮断できない苦しみ

問八 傍線部8の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 痛みの感覚がそのまま痛みの意識へと変わる。
- b 痛みの意識が直接に私の痛みの感覚をもたらす。
- c 痛みの意識がそのまま痛みの感覚へと変わる。
- d 痛みの感覚が直接に私の痛みの意識をもたらす。

問九 傍線部9における「きわめて不満に思われるようにさえなる」の「不満」はどのようなことに対する不満なのか、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 苦痛の状態にある自分が苦痛を意識していることの不条理さ
- b 他から孤立化している自分が苦痛の状態にあることの不公平さ
- c 苦痛の状態にある自分が他から孤立化していることの不公平さ
- d 孤立化を意識している自分が孤立化していることの不条理さ

問十 傍線部10の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 科学的分析ができるように、神経伝達に特化された経験としての痛み
- b 精神物理学的測定法では測定できない、主観的で特殊な感覚としての痛み
- c 圧力の増加によって、無感覚ではなく実際に感覚されるようになった痛み
- d 主観的な感覚であって、客観的に評価しても意味をもたないような痛み



問十一 傍線部IIの「原理的な困難」の意味として適切でないものを次の中から一つ選べ。

- a 痛みの客観的評価と主観的評価を同時に測定できても、両者の結果を比較するための評価基準が存在しない。
- b 痛みは主観的で直接的な理解に基づくもので、外部からの測定結果と本人の理解が一致するかどうかわからない。
- c 自分が感じている痛みを他者に伝える際の言語的表現について、その表現の適切な評価基準が存在しない。
- d 自分の痛みについて客観的に測定された数値と、主観的な痛みの感覚とを比較する科学的方法が存在しない。

二

次の文章は『とりかへばや物語』の一節である。女性であることを隠して男性として生きてきた権中納言(文中では中納言)は、右大臣の娘である四の君と結婚し、外見だけの夫婦生活を送ることとなる。権中納言のもとに、権中納言が女性とは知らない宰相中將が訪れる。これを読んで後の間に答えよ。

人はいかにもすべて身に馴らはしそめ語らひなどせず、いとあまりもの遠くのみもて過ぐる心にも、この人ばかりにはさし放ちがたうあはれなれば、(権中納言)「かうのみのたまふを、なべて言よき御月草のうつりやすきはうしろめたけれど、心苦しう思ひきこえさする折々はべれど、みづからの心にかかすべき方なきことにて、かくのみうけたまはるこそかひなくいとほしけれ」と、うち嘆きて、身を思ひ知りつる名残、いたくながめ入る気色、かばかり思ふことなげなる身に何の飽かぬことと世とともに嘆かしきならん、あまりことさらびまめやかなるもいみじう思ふことのあるなめり、見る人とても飽かぬことありとは聞かぬを、常のことにそれをば目馴らしていかばかりのこののかくはおほゆるならん、この頃の春宮などの御ことか、それもこの人の御身にはいといみじうありがたかるべきならず、いたくつつむことのある人のこのの外にあはれなるかな、と推し量り、気色取りてよろづにとりなし、(宰相中將)「言ひ思はんことは、身に代へてもたばかり気色取りてかなへたてまつりてむ。深く隔てたまへるこそ」と恨むるに、答へん方もなければ、「わが身になりて聞こえ合はせたらんに、しか、やすかりぬべき御心なめり」とうち笑ひて、

6 そのことと思ふならねど月見ればいつまでこのみものぞ悲しき

答へたる声もいみじうにほひありなつかしうおほゆるに、いまめかしき癖はほろほると泣かれて、

7 「そよよその常なるまじき世の中にかくのみものを思ひわづらん

いと罪深くのみ思ひ知られば、この御気色見果てて深き山に跡を絶えなんと思ふ」と語らへば、「そはしも、さ思したらむ時は遅らしたまふなよ。いかでかくて世にはあらじとそぞろにおほゆる心の、年月に添へてもまさりはべれど、さすがにえこそ思ひ立ちべらね」と、あはれにうち語らひ明かして、おのおのまかでも、この中納言よろづめでたくすぐれたるな

かにも、掲焉けちえんにこまやかなるけはひなどの、女にていみじう見まほしうをかしうもあるかなと恋しきにぞ、いとど妹の姫君は思ひおもやられける。

〈注〉○この人：宰相中将。 ○かうのみのたまふ：権中納言の妹が実は男性だと知らない宰相中将は、権中納言の妹に恋心を抱いている。「かうのみのたまふ」は、宰相中将がかなわぬ思いを権中納言に訴えることを言う。 ○春宮：春宮は女性（女一の宮）。

問一 傍線部1「御月草のうつりやすさはうしろめたけれ」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 月草は色が染まりやすいように、宰相中将は一途に思いつめてしまうので気がかりだということ。
- b 月草で染めた色が褪あせやすいように、宰相中将は心が変わりやすいので心配だということ。
- c 月草は色が染まりやすいように、権中納言が宰相中将に恋心を抱いてしまいそうで不安だということ。
- d 月草で染めた色が褪あせやすいように、宰相中将の容姿が衰えていくのが心配だということ。

問二 傍線部2「かひなくいとほしけれ」とあるがなぜか。理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 権中納言は妹の結婚について自分ではどうすることもできないから。
- b 宰相中将は恋心を自分では押さえることができないでいるから。
- c 権中納言は自ら悩みを持ち、それを持って余しているから。
- d 宰相中将は権中納言の期待に応えることができないから。

問三 傍線部3「まめやかなる」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 妻以外にもたくさん恋人がいる
- b 世間並みに恋人が何人かいる
- c 妻以外には全く恋人の噂を聞かない
- d 妻を含めて女性関係に関心が無い

問四 傍線部4「いみじう思ふことのあるなめり」とあるが、ここで宰相中将は権中納言が誰との関係に悩んでいると推量しているか。その内容としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 四の君
- b 宰相中将
- c 春宮
- d それ以外の人

問五 波線部K、Lが表す登場人物を次の中からそれぞれ一つ選べ。

- a 権中納言
- b 宰相中将
- c 四の君
- d 春宮

問六 傍線部6の和歌は、傍線部5の宰相中将の言葉の返答となっている。傍線部6の和歌の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a あなたに言えないその一つの悩みを抱えて月を見ると、いつまでこの世に生きながらえられるのかと悲しくなります。

b あなたが推測したことを悩んでいるわけではないけれど、月を見るといつまでこの悩みが続くのかと悲しくなります。

c 別に特にこれという悩みがあるわけではないけれど、月を見ているといつまでこの世に生きていられるのかと悲しくなります。

d その琴の音を忘れたわけではないけれど、月を見るとあなたの琴の音を思い出し、いつまでそれが聞けないのかと悲しくなります。

問七 傍線部7「常なるまじき世の中」とはどういう意味か。もっとも適切なものを一つ選べ。

a 無常の世の中

b 移り変わる男女の仲

c 政争激しい宮中

d 心の移ろいやすい人々

問八 傍線部8「さ思したらむ時は遅らかしたまふなよ」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 罪深く感じた時は早く悔い改めた方がいいということ。

b 罪悪感を感じたら一人で抱えずに自分に打ち明けてほしいということ。

c 出家して山に入ろうと思うなら早まらないでほしいということ。

d 出家遁世しようとする時は私よりも先にしないでほしいということ。

問九 二重傍線部P、Qの助動詞の意味の組み合わせとして、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a P…完了 Q…尊敬 b P…完了 Q…自発 c P…完了 Q…完了

d P…打消 Q…尊敬 e P…打消 Q…自発 f P…打消 Q…完了

問十 『とりかへばや物語』と同時代に成立した作品を次の中から一つ選べ。

a 『閑吟集』

b 『梁塵秘抄』

c 『懷風藻』

d 『玉葉和歌集』

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、設問の関係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

一目千本、尾山八谷之一也。花最饒、故有此名。蓋比芳野桜谷

云。余与同人出院、下前崖、觉山水与梅花皆已佳絶。任意而行、

至一大谷。文稼識而言之、徑詰曲而上、花夾之。步出其間、如

籬白雲行。数百步達巔。下顧弥望皜然与谿山相輝映。昏黑

還入院、欲俟二月升復出觀花也。余平生想溪梅月夜之奇、欲一

游併之。每歲春有二人自伊来者、輒詢之。花之開謝与二月之虧

盈、每齟齬不相合、遲之七八年。至於今歲、欲以今月望前一来

然以地在山中、著花殊晚、其盛開常在春分前数日。而春分在

今月之末、如其無月何。忽思邵康節詩云、看花切莫見離披。私

謂、及<sup>フ</sup>半開<sup>ニ</sup>則可。何待<sup>ニ</sup>其爛漫<sup>一</sup>。遂<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>望<sup>後</sup>三日<sup>ヲ</sup>来。豈意<sup>おもハシヤ</sup>花開<sup>クコト</sup>已<sup>ニ</sup>  
七八分、或<sup>ハ</sup>将<sup>ニ</sup>十分<sup>ナラント</sup>。実望<sup>外</sup>喜<sup>ビ</sup>也。独<sup>リ</sup>奈<sup>い</sup>日<sup>ニ</sup>已<sup>ニ</sup>落<sup>チ</sup>、黒雲<sup>覆</sup>天<sup>ヲ</sup>。意<sup>殊</sup>  
| 悵<sup>トハ</sup>悵<sup>トハ</sup> |

(齋藤拙堂「梅谿遊記」)

〈注〉

○院：月ヶ瀬にあつた三学院という寺院のこと。月ヶ瀬は、奈良市から伊賀市にかけての景勝地で、梅林の多いことで知られた。筆者は、天保元年に友人らと同地を訪ねた。○文稼：同行者の一人服部文稼。○齋：踏む。○弥望：見渡し。○皜然：白いさま。○伊：伊賀。月ヶ瀬は伊賀と大和の国境にあつた。○開謝：花が開くことと散ること。○虧盈：月の満ち欠け。○今月：二月。○邵康節：北宋の儒学者。○悵悵：がっかりする。



問一 傍線部1「花夾之」、3「与谿山相輝映」、4「輒詢之」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

1 a 山と谷とが花を取り囲んでいる

b 谷の両側に花が咲いている

c 谷沿いの道には花がまばらに咲いている

d 花は谷をうずめるように咲いている

3 a 梅花が山や谷川とよい対照をなしている

b 山と谷川とがちよとよく輝きあっている

c 白雲と山・谷川とがたがいに照り映えている

d 山が谷川の水に写って素晴らしい景色となっている

4 a 何度も月がいつ素晴らしさをたずねた

b そのたびごとに花の開花状況をたずねた

c 折にふれて花と月とが揃う時期をたずねた

d すぐさまいつ行けばよいのかたずねた

問二 傍線部2「如籜白雲行」と書かれた理由として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 谷川の道を登ってゆくと、もやが立ちこめて来て、まるで白雲の中をさまよっているかのような錯覚に陥ったから。
- b 山道を登ってゆくと、その余りに急な傾斜のため、まるで白雲の中を突き抜けてゆくかのような錯覚に陥ったから。
- c 谷川から山の頂へと抜けると、その爽快感のため、まるで白雲の上に乗ったかのような錯覚を覚えたから。
- d 白い梅花が咲いている山道を登ってゆくと、まるで白雲の中を歩いているかのような錯覚に陥ったから。

問三 傍線部5「遅之七八年」の理由として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 花と月の見頃をねらっているうちに自然と時が過ぎたから。
- b 伊賀から来る人を待つうちに、ちょうど好い時期から遅れてしまったから。
- c 満月とともに梅花を鑑賞することができず機会がなかなか訪れなかったから。
- d 開花時期と月の満ち欠けには、つねに時差があつて一致しなかったから。

問四 傍線部6「如其無月何」の書き下し文として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 其の月無きが如きは何ぞや
- b 其の如く月無きを何とやせん
- c 其の月無きを如何せん
- d 如何にして其の月無からんや

問五 傍線部6の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 月が出ていなければ、どうしようもない。
- b 月がない状況をどうすればよいだろうか。
- c 月が出ればなおさらよいのに。
- d 何ということだ、月がないなんて。

問六 傍線部7「離披」と同じ意味を表すものとして、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 殊晩
- b 半開
- c 爛漫
- d 七八分

問七 傍線部8「意殊悵悵」の理由として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 花がまだ充分に咲いていなかったから。
- b 急に天候が悪化して花見には適さない状況になったから。
- c 花は良かったが、月が満月ではなかったから。
- d せつかくの月が黒雲で隠されてしまったから。

問八 筆者が月ヶ瀬を訪れたのは、二月の何日であったか。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 十八日
- b 十五日
- c 十二日
- d 二十八日

